

「少年の主張」弟子屈大会

令和元年度第39回「少年の主張」弟子屈大会が5月26日に町公民館で開催され町内各小中学校の児童生徒の代表が、目で見えて感じたことや体験して思ったことなどを、会場に訪れた多くの方々に語りかけました。今年も、弟子屈高校の3人の生徒が運営に参加してくれました。最優秀賞には小学生の部で橋田泉君(美留和小学校6年)、中学生の部で武田一花さん(弟子屈中学校3年)が、それぞれ選ばれました。中学生の部最優秀賞の武田さんは

7月29日に道立釧路高等技術専門学院で開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」に出場します。

中学生の部 最優秀賞



言葉の力

弟子屈中学校3年
武田一花さん

テレビがない、そんな生活をみなさんはどう思いますか。実は、ぼくの家には、テレビがありません。ニュースなどは、ラジオで聞けます。しかし、ぼくもテレビが嫌いなわけではないので、テレビがあったらいいなと思うときもあります。例えば、サッカーのワールドカップのとき、ぼくはラジオで聞いたので、「テレビがあった方が、わかりやすくいいな」と思いました。

なぜぼくの家にテレビがないのか疑問に思っただけで理由を聞いてみると、「脳が破壊されるって聞いたからだよ」と言っていました。ぼくは、本当かなあと思いましたが、しかたがないなあ、と納得しました。ぼくの家庭では、朝起きるとラジオを聞きながら朝ごはんを食べます。その時は、ちょうどニュースをやっています。学校へ行くと、朝気になったニュースを新聞でくわしく見ます。学校でテレビの話題になることもあります。ぼくは、「今はそういうのはやっていると

テレビがない、そんな生活をみなさんはどう思いますか。実は、ぼくの家には、テレビがありません。ニュースなどは、ラジオで聞けます。しかし、ぼくもテレビが嫌いなわけではないので、テレビがあったらいいなと思うときもあります。例えば、サッカーのワールドカップのとき、ぼくはラジオで聞いたので、「テレビがあった方が、わかりやすくいいな」と思いました。

夜ごはんは家族みんなで食べます。一日のことを話したり、明日の予定を聞いたりしています。食べ終わると、ふとんに入って、ねむくなるまでラジオを聞きます。ぼくは一日をこのように過ごします。また、ぼくの父がカーナビをやっていて、休みの日にはお客さんといっしょにカーナビに乗ったり、おみおくりのついでに、釣りをすることもあります。こう見ると、テレビのない生活もまったく不便じゃないと思います。ぼくは今の生活を気に入っている。むしろテレビのないほうが遊ぶ時間が増え、良いと思います。

小学生の部 最優秀賞



テレビの無い生活
美留和小学校6年
橋田泉君

去年、東北大学の川島教授が、弟子屈町で講演をしたときに、「家でたくさん勉強しても、スマホを4時間以上やる人は、学力が低い、という話をしていた」と担任の先生から聞きました。ぼくは興味を持ったので、その時の資料を読みました。ぼくは初め、「そんな

こと本当にあるのかな、うそじゃないかな」と、少し疑っていました。しかしそこにはちゃんとした調査で、スマホをしすぎると本当はこのようになってしまおうと書かれていたので、すごくおどろきました。川島教授は仙台市の中学生2万3千3百90人の学力検査の結果をグラフに表わして比かくしています。聞いた話では4時間でしたが、実際は、2時間以上スマホをやってしまうと、全く勉強していない人に負けているそうです。他にも、スマホをしているときは、ねむっているときよりも脳がはたらない、という資料もありました。ぼくは、きっと、テレビもスマホも同じようなものだと思うので、父が「テレビを見ると脳が破壊される」といった理由もわかる気がします。テレビはとても便利なものです。しかし、テレビを見るのを少しひかえる生活をしてみませんか。例えば、「ご飯を食べる時に、テレビを消すと、家族との会話が、たくさんうまれてくると思います。ぼくは、これからも、テレビのない生活に感謝しながら過ごしていきたいです。



人は誰しも言葉を持っています。皆さんは自分の持っている言葉にどのような力があると思いますか。たったひとつの言葉で人の命を救うことがあります。その反面、人を傷つけ辛い思いをさせることもあります。私は、そのちょっとした小さな言葉で学校に行きたくないと思ったことがあります。

例えば、「ドンマイ」と「大丈夫」の似た意味の言葉です。私が思うに「ドンマイ」は、次にチャンスがあるときに励ます言葉だと思えます。一方、「大丈夫」は、人の気持ちに寄り添いながら励ましたり、心配する言葉だと思えます。私は去年、前の学校の生徒会選挙に立候補し、落選してしまいました。そのとき、当選した友人からLINEで「ドンマイだったな」と言われ、その一言で腹が立ち、すごく傷つきました。私なりに一生懸命頑張っていた事に「次があるから」とそんな軽いことを言わないで」と思っていました。他の人からすれば、「そんなことで傷つくの?」「気にしなければ良い」

と私のもので来てくださり、ある言葉を私に伝えてくれました。それは「勇気づけられたよ、頑張って手術しようと思っただよ」という言葉でした。当時、小学校2年生だった私にとって忘れられない言葉でした。さすがに、その時はこの方が私に伝えようとした本当の意味など、全く分かりませんでした。今思う

と私の作文・言葉で、その人は自分の思いと重ね、一歩踏み出す勇気を与えられたんだと思いました。私はそのことに大きな喜びを感じました。どんなに小さな言葉でも、心を込めて言えば相手に届くことを私はその時知りました。言葉にはとつても大きな力があります。幸せにする力、不幸にする力があると思います。だからこそ、この世で一番恐ろしいものだとも思います。たったひとつの言葉で喜びを与え幸せになる人もいれば、たつたひとつの言葉で苦しみを与え不幸になる人もいます。今社会で問題になっているいじめもまた、たつたひとつの言葉から始まっているのだと思います。最近のいじめの多くは、悪口、SNSの書き込みなどがあります。悪口、SNSの書き込みもまた言葉です。それらの言葉に追い込まれ、自ら命を絶つ人もいます。言葉で命を救われると同時に、言葉で命を落とす人も少なくありません。また、言葉はただの単語ではありません。伝え方も含めて言葉であると考えます。同じ言葉を伝えるにも、言い方、伝え方、態度によって相手の受け止め方も大きく変わってきます。皆さんは、言葉遣いばかり気にするのではなく表情などの伝え方も大切にしたいと思っています。

運営に協力してくれた弟子屈高校の皆さん
白山潤奈さん(3年)、塚本雄河君(2年)、
吉田龍騎君(2年)

中学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「言葉の力」(弟子屈中3年 武田一花)
- 優秀賞 「絶対やってみせる!」(弟子屈中2年 菅原響流)
- 優良賞 「今生きるということ」(弟子屈中1年 小野心桜)
- 参加奨励賞 「大切な人だからこそ」(弟子屈中1年 佐々木心優)
- 参加奨励賞 「文武両道」(弟子屈中2年 嶋田悠一朗)
- 参加奨励賞 「将来の夢」(弟子屈中3年 沢原美義)
- 参加奨励賞 「今、社会に訴えたいこと」(川湯中1年 佐藤 柊斗)
- 参加奨励賞 「いじめの防止」(川湯中2年 濱岡 宏大明)
- 参加奨励賞 「現在の人の暮らしと地球環境」(川湯中3年 山川 海)

小学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「テレビの無い生活」(美留和小6年 橋田泉)
- 優秀賞 「かわいそうな動物たちを減らすためには」(川湯小6年 小坂 璃音)
- 優良賞 「将来につながること」(弟子屈小5年 小野 萌笑)
- 参加奨励賞 「目指せ金賞」(奥春別小5年 和田 衣都)
- 参加奨励賞 「感情と表情」(弟子屈小6年 樋川 万稀)
- 参加奨励賞 「優しい学校にするために」(和琴小6年 高橋 ののか)